

YMCA News 12



貧困を放置しない地域づくりをめざして



子どもの7人に1人が相対的貧困世帯に暮らしています。特にひとり親の約半数は、年収が120万円以下の相対的貧困世帯と言われています。

そんな中、1日の食事が給食だけ、という子どもがいます。フードバンク岩手は、このようなご家庭等に無償の食料提供を行うNPO法人です。私たちは、市民・企業・団体より、賞味期限内でまだ食べられるのに家で眠っているものや、印字ミスや規格外などで販売できない食品を寄贈していただき、生活にお困りのみなさまへ生活相談の窓口や社会福祉協議会を通じてお渡ししています。また、児童養護施設、子ども食堂や子どもの学習支援団体、災害発生時などにも無償の食品提供を行っています。

支援を受ける世帯のみなさまは、さまざまな事情で困りごとを抱えています。生活相談窓口と食料支援を連携させることで、その『困りごと』を出るだけ早く、根本的に解決するよう活動しています。

私たちは、生活にお困りの方や子どもたちが笑顔で希望をもって暮らしていけることを願い、無償の食料支援の取り組みが広がることによって貧困を放置しない地域づくりをめざしてしています。

食料品の寄贈や寄付金をお願いします



学校が長期休みの冬や夏は給食がないせいで食糧支援の希望者が急増し、提供する食品が不足してしまうこともしばしばあります。ぜひみなさまに、食品の寄贈をお願いします。

食品の寄贈は1品でも結構です。缶詰やレトルト食品、乾物やお米など常温で保存可能なもので賞味期限が1ヶ月以上あるものを募集しています。

また、必要な食品を購入して提供することもあるため、お金の寄付もありがたいです。どうぞよろしくお願いします。

特定非営利活動法人フードバンク岩手

理事長 伊勢昭一

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

11月サンデースクール



11月2日、今月のサンデースクールは向中野センターでスノードーム作りをしました。今回の参加者は24名でした。空きビンの中に、それぞれ好きなおもちゃなどといったモチーフや、ラメなどの飾りを入れ、思い思いのスノードームを作っていました。当初は1人2個までの予定でしたが、3個目も作る子もいてスノードーム作りに夢中になってくれたのかなと思います。また、飾りのしかたも人それぞれで、ビンの中にあったけのラメや飾りを入れたり、ビンの上に飾りを載せてのり付けしたりなど、一人ひとりの個性を感じ取る事ができました。

このスノードーム作りでは誰かのために作ろうというテーマは設けていなかったのですが、工作が終わって、帰り際の子どもたちの様子を見ると、中には自分の作ったスノードームをお母さんやお父さんにプレゼントしている子もいました。また、友達同士で相手のスノードームを褒め合ったりしている場面もあり、ただの工作ではなく誰かのことを思うスノードーム作りになったのではないかと感じました。人との繋がりが薄れている現代、また最近では繋がりをつくろうとすることに弊害があったりもします。そういった中で今回のスノードーム作りを開催できたのは、本当に貴重だったと思います。私達、学生ボランティアのリーダーからしてみても、子どもたちとの交流は本当に楽しいもので、もっともっとこういった人と人が関われる時間をつくっていききたいと思っています。

最後に、リーダー主体で開催させて頂いている、こちらのサンデースクールですが、コロナ禍にある中、今年度2回目の実施ができたのは多くの皆様のご理解・ご協力があったことで、心から感謝申し上げます。今後の活動も、たくさんの参加お待ちしております。

岩手大学2年 小河原悠加(ぶんちんリーダー)



世界の料理ツアー



11月4日に、ぶらざおでつてを会場に、第一回「世界の料理ツアー」のイベントを行いました。このプログラムは、料理という文化を通して世界を学んでみよう、というコンセプトのもと、盛岡在住の外国人グループの方々に協力いただき、今年度から始めました。

今回、コロナウイルス対策として、マスクの着用、手洗い・アルコール消毒を徹底し、少人数での開催となりましたが、子どもたちが世界のことに関心を持ったり、英語を勉強するきっかけになったりしたら嬉しいなという思いもあり、YMCAスペシャルプログラムとして今後様子を見ながらではありますが、続けていきたいと思っています。



第一回目の旅は「ペルー」ということで「ソパ・デ・フリホレス」という豆スープをみんなでがんばって作りました。今回は女の子1人、その他すべて男の子という驚きのメンバーとなりましたが、みんなやってみようという姿勢がみられ、私たちとしてはとても嬉しく、初めてで不安もありましたが、楽しく進めていくことができました。

今まで見たこともない料理に子どもたちも興味津々でした。料理をすること自体、不慣れなことだったと思いますが、不安ながらも包丁を使ってみたり食器を洗ってみたり、普段はなかなかすることのない作業も、いい体験になったのではないかと思います。どんどんできることが増えていくと楽しい!と感じて、本人たちの成長に繋がっていけば何よりです。参加してくれた子たち、本当にありがとう!!

次回の旅は、フィリピン出身のシンディ先生から教えていただく予定です。フィリピンで有名なコナッツベースのおいしいデザートを作るそうで私もとても楽しみです。その会によって国も変われば先生、料理も変わります。子どもたちだけではなく、保護者の方々にも新しい発見が満載のイベントにしていきたいなと思っています。ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

YMCA本町センタースタッフ 玉山葵



ベストキッズ ～新人戦を終えて～



ぼくは新人戦を終えて、キャプテンとしてチームを勝たせることができなくて、とてもくやしい思いをしました。ただ、これからもっともっと強くなれる可能性を感じることで2日間でした。

その理由は、強ごうチームの太田東に対して、全力でぶつかって、最後まで走り切り、自分たちのサッカーが通用することを感じることができたからです。ぼくは3年生の新人戦から、試合に出させてもらって、来年が小学校生活最後の1年間になります。だから、必ず後悔しないような1年にしたいです。そのために、チームとしても個人としても、できる限りのトレーニングを積み、スポ少大会も、全日本少年サッカー大会も優勝したいと思います。その目標のために、普段の練習から自分たちに足りない部分を強化していき、声を出し合い、運動量を上げて、よく話し合い、チームとしてのきずなを深めていき、監督やリーダーに教えてもらったことを形にしていき、YMCA歴代で一番よいチームに仕上げていきます。

ぼくは、本当にサッカーが大好きです。今はコロナの中でもサッカーができること、まわりで支えてくれているすべての人たちにも、一緒にサッカーができるチームメイトに出会えたことにも、すべてに感謝をし、皆がYMCAでサッカーをしてきてよかったねって最後に言ってもらえるようなチームを作っていきます。これからもサポートや、応援よろしくお願いします。

ベストキッズキャプテン 高橋廉翔



フードバンク岩手のご紹介

1 貧困をなくそう



皆さん「フードバンク岩手」をご存知でしょうか。

- ①賞味期限内でまだ食べられるのに、お家で眠っているものや買いすぎたものを、生活に困っている方へ行政や社会福祉協議会を通じてお渡しするという、市民と行政・機関をつなぐ役割を担う。
- ②児童養護施設、子ども食堂や子どもの学習支援団体のほか災害発生時などに無償の食品提供を行う。

以上の2点が大きな取り組みとなっており、全県単位での支援活動をされています。

フードバンクの活動は、盛岡YMCAのミッション(使命・YMCAの存在意義)に掲げている、「子ども、家族、地域とともに公正で平和な社会の実現を目指します」に通じるものです。

地域の社会課題解決に向けた取り組みとして、フードバンク岩手の働きを支援したいと考えています。各世帯の年齢や性別、食糧支援期間に応じた箱詰め作業と一緒にやるボランティア活動も計画中です。食料の寄贈につきまして、以下ご確認いただきぜひご協力ください。

<募集している食品>

缶詰類 レトルト食品 瓶詰類 ふりかけ類 乾物類 お米 乾麺 贈答品

※未開封で、賞味期限が1ヵ月以上の常温保存可能な食品に限らせていただきます。

<寄贈の仕方>

- 放課後児童クラブに通われている方
お子様が通われている、放課後児童クラブの職員にお渡しください。
- サッカー、水泳、体育教室に通われている方
各担当スタッフにお渡しください。
- 英会話教室に通われている方
放課後児童クラブ「ぷらいむ・たいむ向中野校」職員にお渡しください。
- 野外活動「ちきゅうとあそぼう」会員の方
近くのYMCAのセンターにお持ちください(本町・前潟・向中野・盛南)
その他、直接本部事務局にお持ちいただいてもかまいません。

<募集期間>

2020年12月15日(火)～25日(金)

「もったいない」を「ありがとう」に、フードバンク岩手の活動については、<https://foodbankiwate.org/>をご覧ください。
今回の食糧寄贈については、盛岡YMCA本部事務局(080-3094-5502)までお電話ください。

盛岡YMCA各プログラム II期終了日・III期開始日のご案内

12 つくる責任
つかう責任



放課後児童クラブを除く、盛岡YMCAのプログラムは12月にII期が終了し、1月からIII期が始まります。それぞれのプログラムのII期終了日とIII期開始日について、以下ご確認ください。

プログラム名	II期終了日	III期開始日
土淵サッカースクール	12月21日	1月18日
高松サッカースクール	12月16日	1月20日
向中野サッカースクール	12月17日	1月21日
篠木サッカースクール	12月18日	1月22日
本町サッカースクール(幼小)	12月19日	1月23日
月曜水泳教室	12月21日	1月18日
水曜水泳教室	12月16日	1月20日
木曜水泳教室	12月17日	1月21日
金曜水泳教室	12月18日	1月22日
体育教室	12月19日	1月23日
習字教室	12月15日	1月19日
英会話教室	12月25日	1月22日

○ベストキッズは担当より、別途ご案内申し上げます。

II期終了日及びIII期開始日は、YMCAニュース発行時点での予定となっています。変更等ある際には、各担当スタッフよりご案内差し上げます。
※放課後児童クラブ「ぷらいむ・たいむ」は12月30日～1月3日までお休みとなります。

年末は、12月29日まで受け入れを行い、年始は1月4日から受け入れを行います。
※盛岡YMCAは、12月30日～1月3日まで休館となります。休館期間中のご連絡は、各活動担当スタッフに直接お電話ください。



11月9日、16日、リーダーたちは、上米内で行われた漆の苗の植樹作業にボランティアとして参加してきました。

つながる

11月7日に※「岩手サークルオブフレンズ」の皆さんと共催で“世界の料理ツアー”が開催された。このプログラムの目的は、子どもたちが岩手在住の外国人の皆さんとお国自慢の料理を一緒に作りながら国際理解を深めることだ。第1回のパール編では、5名の参加者があり、「ソパ・デ・フリホレス」という豆スープに挑戦した。

参加者の一人、小学3年生のT君。リーダーに補助されながら真剣にネギを切っている。そのうちに、目が痛くなってきたらしい。「痛いぞ!! 痛いぞ!!」と叫びながら、なおも切り続ける。そして、ぽつりとつぶやいた。「見ない煙があるみたいだ…。」T君はYMCAの放課後児童クラブ「ぶらいむ・たいむ」に所属しており、月例の野外活動にも積極的に参加している。

YMCAの野外活動で調理をするときは、子どもたち自身が新聞紙を用いて小さな木に火をつける。そして空気の道を考えながらだんだんと大きな木に火を移していくのだ。ところが、これがなかなか上手いれない。団扇で懸命に扇いでも、組んだ木が途中で崩れたり、燃えかすで空気の道が塞がれたりするからだ。そういう時は、火ではなく煙がいっぱい出る。涙も同じくらい出てくる。それでも子どもたちは、工夫しながら、何度もチャレンジする。

ネギを切りながら見えない煙を感じたT君の中では、これまでの様々な体験が繋がっているのだろう。

「すると、柴の間で燃え上がる炎の中に、主の使いが現れた。彼が見ると、柴は火で燃えていたが、燃え尽きることはなかった。そこでモーセは言った。『道をそれてこの大いなる光景を見よう。なぜ柴は燃え尽きないのだろう。』」

(聖書協会協同訳 出エジプト記3章2～3節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※ 「岩手サークルオブフレンズ」盛岡を拠点に活動している他国籍のボランティアサークル。国籍を問わず約70名のボランティアが所属している。

※ 「ポジティブネット」互いの存在や個性を認め合、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

● 寄附金

花田 暉、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、高瀬稔彦、今野健男、今野聖子、南原良哉、佐藤翔、高橋友恵、田村育代、及川茂夫、小笠原梨香、菊地弘生、大澤篤人

● 維持会員
(2020年11月27日現在 敬称略)
廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、浅沼誠久、花田 暉、山崎詩織、林間つきみ、野教会、照井夏輝、光永尚生、金ヶ澤亮、斎藤優太、魚住恵、accommod、川坂保広、ガイアリンク(株)、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕一郎、高瀬稔彦、森山日菜乃、森山幹大、大塚英彦、押切梓名、古屋恒彦、名古屋理恵、今野健男、今野聖子、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、石川菜、浅沼慧、浅沼美希、佐藤翔、小川嘉文、小川明佑、阿部深雪、高橋友恵、濱塚有史、濱塚真美、武田理恵子、菅原歩、藤原依音、植田一茂、武田悠、向平悟、向平ちひろ、滝川佐渡子、戸貞文、田村治之、大久保里美、東森聡、田村育代、今野謙治、高橋奈菜、工藤悦子、大関靖二、小山憲彦、伊藤信彦、佐々木隆弘、水田賢次、及川茂夫、菊地弘生、水野暢夫、上中優奈、松尾聡子、増田隆、鶴丹谷三子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、栗谷川香、中原真澄、宮田康男、永山聖子、宮田伸樹、大賀真理、櫻井大樹、大澤秋太郎、和田賢一、織笠友理子、泰江道代、大澤篤人、伊藤真太郎、杉田未来

きいろいのはちょうちょ



五味太郎 作
偕成社

「きいろいのは ちょうちょ……」「あれ ちょうちょ じゃない」この2つの言葉で始まるこのお話は、ちょうちょを捕まえた男の子の物語。皆さんも色が同じだから見間違ってしまうことはありませんか??この物語もそんな色に関する見間違いを、仕掛けを使ってわかりやすく表現しており、ちょうちょを男の子と一緒に追いかけてページを読み進めるとあつという間に読み終わってしまい、また読みたくなる、そんな不思議な中毒性がある絵本です。

ちょうちょの形の穴の向こうに見えたものは黄色い花や木の実、信号機の色など捕まえたものが何であるのかはページをめくってからの楽しみ。それからちょうちょの穴は、左のページで豚の鼻に変化したり金魚に変化したりと、様々なところに遊びの要素が組み込まれているので、ページをめくっては戻ってを繰り返して「この絵が次のページではこの仕掛けにつかわれているんだ」とストーリー以外にも繰り返し読み返したくなります。

最後には自信をなくして、ちょうちょの形を見ても「もう ぜったいに ちょうちょ じゃない……」と諦めてしましますがそれが本当にちょうちょなのか、それとも違うのかは読み手だけが知ることができる、そんな最後に大人になった今だからこそいろんなことを考えました。

気になった方は、ぜひ手にとってこの絵本を読んでほしいです。この絵本の魅力に引き込まれること間違いありません。「きいろいのはちょうちょ」という純粋な男の子と一緒にちょうちょを捕まえに行きましょう。

岩手県立大学2年 十文字堅斗(おびリーダー)

表紙の写真から



盛岡YMCAサッカー大会『チャンピオンズカップ』。自分の担当しているチームがゴールした時のラフリーダー(岩手大学教育学部4年生)。喜ぶ人と共に喜べる青年は、来年春から、県内の小学校の教壇に立ちます。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>